

## RAC

(川に学ぶ体験活動協議会)

## 認定

# 川の指導者講習の開催!

◎日時：平成29年6月23日(金)13:00～6月25日(日)17:30 (3日間)

◎場所：栗山町雨煙別小学校コカコーラ環境ハウス (座学)、  
千歳川、夕張川支川雨煙別川 (実技)

今年はRAC(川に学ぶ体験活動協議会)のリーダー講習も兼ねて、3日間に及ぶ厳しい講習会となりました。RACリーダーをめざす受講生たちは、川のしくみや生き物、子どもたちへの指導方法、安全管理、心肺蘇生などをしっかり勉強しました。

(栗山町、札幌市、恵庭市から24人参加)

<座学>



指導者は、先生ではなくてガキ大将になる!

<川歩き、川流れ訓練>



流れを読めば、安全に歩ける

<魚類調査>



生き物によって、川の様子がわかる

<心肺蘇生訓練>



最初に119番通報、次はAEDを使って救命処置

第33回

## 夕張川流域会議

川の学習の視察&お手伝いと意見交換

◎日時：平成29年7月24日 (月) 9:00～15:00

◎視察場所：夕張川支川ハサンベツ川 (継立小の川の学習の視察)

◎意見交換場所：栗山町ふれあいプラザ

NPO雨煙別学校が指導する、継立小学校1～2年生の川の学習会を視察しました。川の学習会では、委員も川に入り、子供たちの生き物採りのお手伝いをしました。たくさんのザリガニや魚などが採れたので、子供たちも大喜びでした。午後の意見交換では、流域生態研究所の妹尾氏から川塾の意義や目的、川の指導者のあり方について、栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会の高橋氏からは、視察場所となったハサンベツ里山づくりについてお話をいただきました。委員からは川の学習の活性化や、川の指導者育成について、意見がありました。また、夕張川の流況や環境を考慮した河川管理、河川利用の重要性を指摘する意見もありました。



▲意見交換の様子



▲ザリガニ採り



▲魚・水生昆虫採り



▲採れた魚たちを観察

川へ行くときは、パソコン、スマートフォンから情報をゲット!!

河川・ダムリアルタイム情報 <http://info-dam.hdb.hkd.mlit.go.jp/river/>

# 夕張川の生き物たち

ニホンザリガニ

ハサンベツ川で子供たちが採っていたザリガニは、日本固有種のニホンザリガニ(写真参照)です。ニホンザリガニの体長は5cm程度で、成熟するまで5年くらいの時間がかかるといわれています。湧水がつくる安定した水位、水温環境を好み、広葉樹の落ち葉が水中で腐りかけたものを餌にしています。ニホンザリガニは、森と川がつくる絶妙なバランスが崩れると直ぐに姿を消してしまう、とても繊細な生物なのです。(参考:北海道水辺の生き物の不思議 北海道新聞社)



▲ニホンザリガニ。薄い茶色で可愛い



▲湧水のある、きれいな小川に生息

## 「木詰(きづまり)」という地名と「万歳堤防」

旧夕張川沿いには「木詰」という地名があります。昔は夕張川から流れ着いた木が溜まる場所で、水害の常襲地域でした。川があふれそうになると両岸に住む住民が砂を入れた米俵を積んで、自分達の堤防の嵩上げを競い、対岸の堤防が切れると「バンザイ」と叫んだので、このあたりの堤防が万歳堤防と呼ばれるようになったそうです。

昭和11年(1936年)夕張川新水路完成で夕張川は旧夕張川となり、水害が減り、「万歳堤防」とは呼ばれなくなり、木詰という地名だけが残りました。(参考資料:「北極星のもとに〜横路美喜さんの回想」より)



▲地名の由来を示す標柱



▲木詰橋より旧夕張川上流を望む



▲今の旧夕張川沿いには、豊かな水田が広がる



▲昔の夕張川は千歳川に合流していたが新水路完成で石狩川に直接合流した。

発行：夕張川流域会議事務局

江別河川事務所：〒067-0074 江別市高砂町5 電話 011-382-2358  
夕張川ダム総合管理事務所：〒068-0546 夕張市南部青葉町573 電話 0123-55-5151

夕歩道バックナンバーは、ホームページで [https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/ebetu\\_kasen/index.html](https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/ebetu_kasen/index.html)